

東京大学 多様性包摂共創センター主催

障害の社会モデル

から考える

インクルーシブ防災

日本手話⇄
日本語通訳

日→英
通訳

UDトーク
(修正あり)

第1部：座談会

「社会モデルと人権モデルー
国際的な視点と交差性の視点から」

第2部：パネルディスカッション

「大学の防災は多様な構成員を前提
としているか」



2026年

12.15 **火** **10:00 ▶ 12:00**

オンライン配信あり

会場

東京大学 本郷キャンパス 情報学環・福武ホール
地下2階 福武ラーニングシアター（定員100名）

申込

<https://forms.gle/aoa5DURkn1NhFdEB9>



第1部「社会モデルと人権モデルー国際的な視点と交差性の視点から」



熊谷 晋一郎

多様性包摂共創センター 副センター長

脳性まひで、電動車いすユーザー。小児科医として仕事をしてきたが、現在は、困難を生きる本人が研究の主役になる当事者研究や、コプロダクションに取り組んでいる。

藤原 久美子

DPI女性障害者ネットワーク代表
／IncluDE当事者評議会 委員



十代で1型糖尿病を発症、合併症により三十代半ばで視覚障害者(弱視)となる。40歳で妊娠したが、障害を理由に医者と親族から中絶を勧められた経験から、障害女性の複合差別の解消に向け取り組んでいる。

田門 浩

都民総合法律事務所 弁護士



1967年生、生まれつき耳が聞こえないろうあ者。1998年弁護士登録。手話通訳者と共に弁護活動。弁護士として障害者団体とともに障害者の人権擁護活動に携わっている。2025年から国連・障害者権利委員会委員を務めている。

第2部「大学の防災は多様な構成員を前提としているか」



中津 真美

多様性包摂共創センター バリアフリー推進オフィス 特任講師

筑波大学大学院人間総合科学研究科博士課程修了。博士(生涯発達科学)。2005年東京大学バリアフリー支援室に入職。障害のある学生・教職員への支援のほか、全学バリアフリーのための業務に従事。専門は、障害者支援、聴覚障害学、コーダの心理社会的発達研究。

目黒 公郎

東京大学 教授



同大学院情報学環・学際情報学府 学環長・学府長。東京大学大学院工学系研究科博士課程修了(工学博士)。専門は都市震災軽減工学、国際防災戦略論。研究テーマは構造物の破壊シミュレーションから防災の制度設計まで。

菅井 裕行

宮城教育大学教職大学院
特別支援教育プログラム 教授



阪神淡路大震災・東日本大震災を経験。コミュニティ心理学の立場から被災支援・防災研究に関わり、2026年から東北大学災害科学国際研究所のインクルーシブ防災研究プロジェクトに参加。

丹羽 太一

東京大学 特任研究員



早稲田大学修士課程修了後、同大建築学科石山修武研究室スタッフとして半年勤務、病のため車椅子生活となり、1年間の入院を経て再び同職。同研究室で業務に携わる。2010年より東京大学経済学研究科で「障害と経済」プロジェクトに参加。2022年より現職、「社会的共通資本としての住環境整備」について研究。

瀬口 沙良

東京大学 職員
(施設部環境課 交通管理チーム)



聴覚障害の当事者。東京都立葛飾ろう学校高等部専攻科デザイン系を卒業後、2023年から東京大学に勤務。聴覚障害のある職員で構成されたチームの一員として、構内駐輪場の自転車整理や事務業務に従事するほか、環境に関するポスター制作を通じてデザイン技術を活かしている。